

まこと新聞

発行者
高島まこと
後援会
明石 直大
亀山市辺法寺町
205
85-1744



9月定例議会一般質問

こんにちは、高島まことです。

今年の夏は、酷暑で非常に暑かったです。ここに来てようやく秋らしくなってきましたが、皆様如何お過ごしでしょうか？暑さもさることながら9月に入ってから台風12号、15号が三重県を直撃し、甚大な被害をもたらしました。蛇口をひねると水が出る。スイッチを押せば電気が付く、そして部屋が冷えて快適な生活が約束されたようでしたが、震災以降電気の大切さが切に解ったのではないのでしょうか？

まこと新聞8号は、9月定例議会一般質問内容と紀宝町災害状況を中心にお伝えしたいと思います。

9月15日（木）今回の一般質問として、私高島まことは、次の質問をしました。

1. LED防犯灯について
2. 防災体制について

この2項目の質問内容について各項目別に詳しくお伝えしたいと思います。

LED防犯灯について

高島：東日本大震災の教訓として防災に対する意識や節電に対する思いが高まって来たように思われますが、その中で亀山市内に於ける防犯灯、街路灯、通学灯など沢山の明かりで市民の皆さんの安心、安全を守っていますが、市内の設置台数を聞かせてください。

答弁：市内の防犯灯に関しては、各自治会が管理運営しており器具の交換については、上限2万円、その内3分の2を市で補助しています。22年度現在設置台数は4234基その内LED灯は、22基で有ります。

高島：手元の資料に依りますと防犯灯の年間電気料金は、1203万3939円と有りますが、間違い有りま

せんか？

答弁：間違い有りません。

高島：そこで私が言いたいのは、電気代や人件費いわゆる固定費の削減です。現在の技術では、既存の器具を活用し、LED灯に交換することで私の試算に依りますと年間電気料金360～400万円節電出来ると思いますが、如何ですか？

答弁：参考ですが、高知県日高村の試算に依りますと、1基あたり年間720円の節電になります。

高島：亀山市に於いてもLED化を推進して頂いて、更には節電した分、各自治会の負担を無くしていく事も考えられるのでは？

答弁：LED化に変更することにより、環境に優しく、長寿命で更に節電効果も見込めるため今後、更に検討、調査していきたいと思えます。

防災体制について

高島：東日本大震災で津波の被害に遭われた方の96%は水死で有ります。亀山市は、津波の被害は無いから安心だと思われそうですが、先般台風12号で紀宝町にボランティアに行ったときは、山津波が発生したと云われました。先ず市内に於いて、防災倉庫備蓄品の状況を聞かせてください。

答弁：市内には、中央備蓄倉庫、関備蓄倉庫始め10ヶ所の災害備蓄倉庫がございます。その中には、食料品、飲料水、発電機、毛布等が備蓄しています。

高島：野登小学校、南小学校も備蓄倉庫として今年度から活用させていると聞きましたが、此処には食料は、保管されているのですか？

答弁：この2校に付きましては、倉庫の保温、保湿対

策がされていけませんので食料品、飲料水は、有りません。

高島：亀山市は、幾つかの川が流れています。洪水で川が氾濫しますと孤立しています。先ず、命が助かった、次に食料が必要です。3番目に寝る場所の確保では無いでしょうか？その様な状況になりますと、防災備蓄倉庫が大変重要な役割を担うのでは無いでしょうか？救援物資を運ぶ市の職員の方も被災されます。この様な状況下で、適切な対応が出来ると思われませんか？

答弁：現在保温、保湿の関係で食料品置けない備蓄倉庫は今後、近くのコミュニティーセンターや、校舎内に設置出来るよう検討していきたいと思えます。

高島：次に市長にお聞きします。災害時市役所の体制は、どの様な設定になっているのかお聞きしたい

市長：災害時に於ける最終体制ですが、2つに分けて考えています。先ず風水害の警報が発令された場合、一次配備として25名、二次配備として84名、更に状況悪化の非常時には、全職員を配備します。次に地震の場合震度5弱で警戒態勢、78名の配備、5強以上で非常態勢を引きます。市の職員の居住地に依って配備状況が変わって来ますが、平時からしっかり準備、訓練が重要と考えています。

高島：災害に於いては、よく想定外の雨が降り洪水が来た、想定外の地震、台風が来たと有りますが、いかに想定外を想定内に抑えるかが非常時の市の体制が重要と考えます。

コメント

私も色々な被災現場を見て参りました。災害が発生した場合、ああ、あの時災害準備をしていたら良かった・・・では遅いのです。いかにリスクを小さくし、防災、復旧、復興に努めなくてはなりません。その為には、常日頃から防災意識を高め、準備、訓練が必要だと考えます。

台風12号 紀宝町被害状況

9月11日(日) 亀山市から、紀宝町迄約180km、途中国道42号線は、4ヶ所の崖崩れで片側通行。すれ違う車両の多くは、自衛隊、電気工事普及作業車。他県ナンバーの中部電力 中には、北陸電力、関西電力と云った近隣電力会社の車両が実に100台以上。この数からでも被害状況の大きさが伺うことができます。

ようやく三重県と和歌山県の県境に有ります紀宝町災害ボランティアセンターに到着。三重の夜明けメンバーのひとり、紀宝町議員の榎本 健治氏と再会。早速、救援物資のタオル200枚、マスク500枚、お茶や下着類を渡し、状況説明を聞きました。此処でも想定外の洪水が来たと云われました。県境の熊野川堤防高さ9m40cmを遙かに超える12m30cm・・・実に堤防より3m高い洪水がこの地を襲いました。



読者の皆様、想像して下さい。実際に被災した方の話です。当初床下浸水かと思っただけなら今まで経験した事の無い雨量で水位が

徐々に上がって来ました。やがて床上浸水。腰の高さ迄上がって来ました。廻りは停電で真っ暗です。家族は、飼い犬と2階に避難しました。水位は、衰えるどころか、益々上がって来ます。救助を求めても携帯電話も使えません。家族は、胸の高さまで浸かりながら2階のベランダから脱出し、近所の家のゴムボートで高台に避難しました。時刻は、夜中の3時。周りは真っ暗です。結局2階の天井付近まで水が来ました。



榎本さんに車で被災地を案内して頂きました。遙か頭上6~7m上の電話線や送電線に沢山、流木や枯れ草が引っかかっています。ここまで水位が上がった事になります。今走っている道路は、この地点から7m以上浸水していた事になります。想像を絶します。

そこら中、道路の端に水に浸かった、畳やテレビ、冷蔵庫、洗濯機、家具や衣類等山積みされています。凄い量です。当初市の職員が、道路に置かれた瓦礫を集積場に運ぶ計画していましたが、余りにも量に町民グラウンドを急遽、集積場に設定し仮置き

場にしましたが、それでも足りません。すぐにパンク状態です。とてつもない瓦礫の量です。



しばらく走り出すと周りは、一面田んぼです。「榎本さん、稲刈り終わっていて良かったですねえ」・・・返答が有りません。「実は、収穫したばかりの新米をライスセンターで貯蔵しています。そのライスセンターが水害に遭って、今年の米は、全滅です」「え～ そうなんですか。」皮肉なことに未だ稲刈り終わっていない田んぼは何とか残りました。・・・でも稲を刈り取るコンバインは水に浸かり使い物になりません。紀宝町も農業される方は、ご高齢でお年寄りが大半です。今年は、農家の方が、お米を購入しなくては行けないそうです。このような状況下で来年も米作出来るでしょうか？田んぼを耕すトラクターや、田植機、コンバイン等、水に浸かりました。全部揃えないと出来ません。高額で中々手が出ません。その分お米を買った方がどれだけお米が買えるか・・・やるせない・・・そう言われました。言葉が出ません。

話を戻します。熊野川の堤防と、支流の相野谷川上流地域、輪中堤地区に設置して有ります堤防は、同じ高さの9.4mです。洪水はその高さを乗り越え輪中の中に入ってきました。輪中堤地区の堤防は、外からの圧力に対し耐えられる様に設計されてい

ますが、堤防の中から外に掛かる水圧に関しては、大変弱く外側の水位が下がって、内側の溜まった水圧が一気に外側に掛かり簡単に堤防が50mの長さに渡って破壊されました。その近辺の家屋は、外側に飛び出す水流の強さで、家の土台部分が浚われ、傾きました。まさに山津波です。

台風12号だけでは有りません。その後15号も紀宝町に追い打ちを掛けました。輪中堤地区で被害が有った堤防を修復中に15号が襲いました。工事用の国土交通省事務所のプレハブが屋根まで浸かり、30tクレーンも浸かり、使い物になりません。泣きっ面に蜂・・・この事でしょうか。



高岡地区では、裏山が崩れ土石流が家屋を押しつぶしました。かつて平和に暮らしていた我が家が、一瞬の内に瓦礫の下に、大切な品物や思い出までもが全て埋もれてしまい、命だけでも助かったが、何処から手を付けて行けばよいか・・・途方に暮れて居る後ろ姿を見ると声も掛けられません。

これほど甚大な損害をもたらした、今回の台風12号、15号。皆様も他人事では有りません。明日は、我が身、平時のこの時に防災について準備、訓練が必要ではないのでしょうか。